



成果指標				
成果指標	入所児童1人当たりの事業費(月額)※算出方法:(事業費合計-保育料(現年度収入額))÷入所児童数(月単位の延べ人数)			
指標設定の考え方	入所児童1人当たりの事業費を成果指標に定め、今後の児童数の減少及び施設の老朽化に基づく、指標の増を計画的に抑止する。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	72000	72000	72000	72000
実績	81405	93657	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	年間を通して、保護者とのトラブルや事故も発生しておらず、適正な運営を行うことができた。滞納者については、発生してしまったが、早い時期に完納できるよう努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	保育料の滞納をなくすように努めるとともに施設内外の環境整備の見直しを行う。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・少子化対策には大変有効である。・少子化対策として新しい方針も出ている。女性の働く機会を増やすためにも、多様な保育需要を受け止めないといけない。土日保育や一時保育、延長保育、一時預かりなどニーズをしっかりと捕まえる指標を設定すべき。・滞納整理だけの課題認識というのは、非常にマイナーな発想ではないかと思う。・正規や臨時を含め、保育士の人件費は大きなウェイトを占めており、細かいニーズにも対応している。ちゃんと表示して、埋もれさせる必要はない。・この成果指標は人員削減をしないと達成しないものであり、保育から遠ざかるような指標は、目的から反していると思う。・人件費を除いた消耗品や備品購入費を効率的に運用するという捉え方もあるべきではないか。・臨時職員で対応するという、人を育てるのに安く上げようという発想自体がいただけない。正規職員と臨時職員とのすき間を埋めるような、機動力のある職員の採用など、もう少し根本的な何かがあってもいいと思う。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>新制度に移行することもあり、保育の質の向上、人材の確保に努めること。</p>